

ODIPv3.4 修正パッチ (P1030400003775) リリースノート

2019/06/6

(株) インテリジェント・モデル

この文書は、ODIP™ Enterprise Solution v3.4 に対する修正パッチ (Build-id: 1030400003775) に関する修正を記述したものです。

ODIP は、(株) インテリジェント・モデル社の登録商標です。

本書に掲載された情報に基づいた行為の結果として発生した損害、利益の損失、経費などについて、(株) インテリジェント・モデルならびに本書の製作関係者は一切の責任を負いません。

本書は著作権法上の保護を受けています。本書の一部あるいは全部を無断で転載・複製することは法律で定められた場合を除き、禁止されています。

目 次

A. 変更内容.....	4
1. Azure SQL Data Warehouse への対応.....	4
(1) 改定内容.....	4
(2) 影響範囲.....	4
(3) 制限事項.....	4
2. ロード用データファイルの文字コードの指定機能の追加.....	4
(1) 改定内容.....	4
(2) 影響範囲.....	5
3. データベースへの接続が切れた際の再接続機能の追加.....	5
(1) 改定内容.....	5
(2) 影響範囲.....	6
4. その他の修正	7
(1) ODIP アドミニストレータ	7
(2) ODIP リポジトリマネージャ	7
(3) ODIP プロセスマネージャ	8
(4) ODIP トランスフォーマ	8
B. 適用方法.....	9
1. ライブラリファイルの更新.....	9
2. 適用後の確認方法	9
C. JDBC ドライバの更新について.....	11

A. 変更内容

1. Azure SQL Data Warehouse への対応

(1) 改定内容

データソース情報の DBMS 名に、「Azure SQL Data Warehouse」が追加され、処理の入出力データベース、およびトランスフォーマ・リポジトリに Azure SQL Data Warehouse が使用できるようになりました。

(2) 影響範囲

本改定による既存の処理、定義への影響はありません。

(3) 制限事項

Azure SQL Data Warehouse では、JDBC ドライバの一部の操作がサポートされないため、ODIP アドミニストレータの「データベース・ツール」 > データ表示の「ページ移動」、「CSV ファイルに書き出し」を行うことができません。

2. ロード用データファイルの文字コードの指定機能の追加

(1) 改定内容

ODIP トランスフォーマの"<dbms 名>.properties"に次のオプションが追加され、ロード用データファイル(dat ファイル)の文字コードを指定できるようになりました。

```
loader.file.encoding = 文字コード名
```

Linux 上で動作する ODIP トランスフォーマから Microsoft SQL Server、Azure SQL Database、Azure SQL Data Warehouse へデータを出力する場合、ODIP トランスフォーマのインストールディレクトリの config ディレクトリの sqlserver2008.properties、または sqldw.properties を次のように変更してください。ファイルが存在しない場合、config/jdbcsample ディレクトリからご使用の DBMS に対応したファイルを config ディレクトリにコピーしてください。他のデータベース製品を使用する場合は、変更の必要はありません。

・変更前

```
loader.command = bcp ... -C <charset> ...
```

- ・ 変更後

```
loader.command = bcp ... -C RAW ...
loader.file.encoding = MS932
```

(2) 影響範囲

本改定による既存の処理、定義への影響はありません。

3. データベースへの接続が切れた際の再接続機能の追加

(1) 改定内容

データベースへの接続時、または接続中のセッションが切れていた場合に再接続を行うためのオプションが、ODIP トランスフォーマに追加されました。Azure 環境など、データベースの接続で一時的な、自動的に修復されるエラーが発生する場合に再接続を有効にしてください。

本機能は、ODIP トランスフォーマの設定ファイル"`<dbms 名>.properties`"に、次のオプションを追加することで有効になります。再接続のリトライ回数を 1 以上にして実際にリトライした場合、ODIP トランスフォーマの `odip_trace.log` に、再接続のリトライに関するメッセージが出力されます。

(a) 再接続のリトライ回数

オプション	<code>connect.retry.count = [回数]</code>
説明	データベースへの最初の接続が失敗した場合、またはトランスフォーマ・リポジトリとの接続が切れた場合に再接続を試みる最大の回数を指定します。処理の入出力のデータベース接続が処理中に切れた場合は、リトライせずに処理は異常終了になります。 本オプションが指定されていないか、指定された回数が 0 以下の場合は再接続を行いません。
既定値	0

(b) 再接続のリトライ間隔

オプション	<code>connect.retry.interval = [秒数]</code>
説明	再接続の際に、次の再接続を試みるまでの間隔を秒数で指定します。
既定値	10

(c) 再接続対象のエラーコード

オプション	connect.retry.error.code = [エラーコード] ([エラーコード]...)
説明	再接続のリトライ対象とするエラーコードを、カンマ区切りで指定します。 リトライすることによって再接続可能な、一時的な障害を表すエラーコードを指定してください。
既定値	なし ※ Azure SQL Data Warehouse の設定ファイル(sqldw.properties)には、次のエラーコードが指定されています。 4060, 40197, 40501, 40613, 49918, 49919, 49920 Azure SQL Database を使用する場合は、設定ファイル (sqlserver2008.properties)に、上記エラーコードを指定してください。

(d) 再接続対象の SQLSTATE

オプション	connect.retry.error.state = [SQLSTATE] ([SQLSTATE]...)
説明	再接続のリトライ対象とする SQLSTATE を、カンマ区切りで指定します。 リトライすることによって再接続可能な、一時的な障害を表す SQLSTATE を指定してください。
既定値	なし

(e) 接続の検証のタイムアウト秒数

オプション	connect.validate.timeout = [秒数]
説明	データベースへの接続が有効かどうか接続の検証を行う際に、データベースの応答を待機する秒数を指定します。 データベースの応答前に指定した秒数が過ぎると、接続は無効と判断されます。 0 を指定すると、タイムアウトせずにデータベースの応答を待機します。
既定値	60

(2) 影響範囲

本改定による既存の処理、定義への影響はありません。

4. その他の修正

(1) ODIP アドミニストレータ

- ① データ表示ウィンドウの「CSV ファイルに書き出し」ダイアログのファイルの種類
の既定値が「*. *」から「*. csv」に変更されました。
- ② データ表示ウィンドウで、複数ページの行数があるにもかかわらずページサイズが
1/1 のまま、行数とページサイズの整合性が取れていない場合がある問題が修正され
ました。
- ③ データ表示ウィンドウから、プリファレンスに設定された最大表示行数より多い行数
のデータを CSV ファイルに出力する場合、Null を表す文字列<null>が囲み文字””で囲
まれない問題が修正されました。
- ④ データ表示ウィンドウの「CSV ファイルに書き出し」で、文字列の引用符に「なし」
を指定して CSV 出力すると、文字列が””で囲われて出力される問題が修正されまし
た。
- ⑤ 入力データのソートキー項目[キー・ユニット]に、同じ属性を複数個登録できる場合
がある問題が修正されました。
- ⑥ 次の操作を行うと、「Widget is disposed」と表示されるエラーが発生する問題が修
正されました。
 - (a) プロジェクトのインポート画面で定義を選択して、相違点ダイアログを開く
 - (b) 相違点の詳細ダイアログを開き、詳細ダイアログを開いたまま(a)の相違点ダイアロ
グを閉じる
 - (c) 再度、相違点ダイアログを開き、相違点の詳細ダイアログを開く

(2) ODIP リポジトリマネージャ

- ① リポジトリの変更内容ダイアログを開き、詳細表示を行うとエラーが発生する場合が
ある問題が修正されました。
- ② 次の操作を行うと、「Widget is disposed」と表示されるエラーが発生する問題が修
正されました。
 - (a) リビジョン一覧の変更点表示ダイアログで定義を選択して、相違点ダイアログを開
く
 - (b) 相違点の詳細ダイアログを開き、詳細ダイアログを開いたまま(a)の相違点ダイアロ

グを閉じる

(c) 再度、相違点ダイアログを開き、相違点の詳細ダイアログを開く

(3) ODIP プロセスマネージャ

① 「データセット情報」のエクスポート／インポート機能で、データソースが「CSV ファイル」の次の情報がエクスポート／インポートされない問題が修正されました。

- ・ エンコードの種類
- ・ 改行コード
- ・ 区切り文字
- ・ 文字列の引用符

(4) ODIP トランスフォーマ

① 出力先のデータベースが Oracle で、「データソース情報」ダイアログのパスワードにスペースが含まれていると、ローダーの実行でエラーが発生する問題が修正されました。

② ODIP トランスフォーマの設定ファイル batchMain.conf に外部関数実行時の最大待ち時間を指定するオプション external_function_max_wait_time の指定がない場合にタイムアウトしない問題が修正され、60 秒でタイムアウトするように変更されました。

③ 中間データセットの自動削除オプションを有効(delete_interim_data=Y)にして処理を実行したにもかかわらず、次に該当する場合には、自動作成された中間データセットの一部が自動削除されない問題が修正されました。

- ・ 管理単位にグループ集計、時系列演算のいずれか、または両方が定義されている。
- ・ 中間 データセットに CSV ファイル、または固定長ファイルが指定されている。

B. 適用方法

本パッチは、次の ODIP 製品に適用してください。

- ODIP アドミニストレータ v3.4
- ODIP オペレーションマネージャ v3.4
- ODIP リポジトリマネージャ v3.4/ODIP プロセスマネージャ v3.4
- ODIP リポジトリサーバ v3.4
- ODIP トランスフォーマ v3.4

1. ライブラリファイルの更新

インストール DVD の ODIP34_P003775 フォルダに、各製品のプログラムファイル対応したライブラリ (ファイル名 odp*.jar) が含まれます。ODIP が起動していたら停止し、「表 1 パッチフォルダの構成とファイルのコピー先」のとおり、ODIP 各製品の lib フォルダに上書きコピーしてください。

表 1 パッチフォルダの構成とファイルのコピー先

フォルダ		ファイルのコピー先	
ODIP34_P003775	lib	ADM	ODIP アドミニストレータの lib フォルダ (14 ファイル)
		OPE	ODIP オペレーションマネージャの lib フォルダ (8 ファイル)
		RPM	ODIP リポジトリマネージャの lib フォルダ (12 ファイル)
		RPS	ODIP リポジトリサーバの lib フォルダ (7 ファイル)
		TFM	ODIP トランスフォーマの lib フォルダ (8 ファイル)

2. 適用後の確認方法

ファイル更新後は、製品のバージョンが 3.4、ライブラリのビルド ID が 1030400003775 になります。バージョン、ビルド ID は、各製品を起動して、「表 2 各製品のバージョン・ビルド ID の確認方法」のメニュー、コマンドで確認してください。

表 2 各製品のバージョン・ビルド ID の確認方法

製品名	確認方法
ODIP アドミニストレータ	ヘルプメニュー > “ODIP について”
ODIP オペレーションマネージャ	ヘルプメニュー > “ODIP について”
ODIP リポジトリマネージャ	ヘルプメニュー > “ODIP について”

ODIP プロセスマネージャ	
ODIP リポジトリサーバ	ODIP リポジトリマネージャの ツールメニュー > “ORMS サーバ情報”
ODIP トランスフォーマ	“showserver.sh -i v” を実行 (UNIX 系) “showserver.bat -i v” を実行 (Windows)

C. JDBC ドライバの更新について

本パッチの適用後、Java Database Connectivity (JDBC) API 4.0 よりも前の仕様に準拠する JDBC ドライバを使用すると、JDBC ドライバの非互換性によるエラーが発生する場合があります。JDBC 4.0 以降の仕様に準拠する JDBC ドライバへの更新をお願いいたします。JDBC ドライバの取得導入につきましては、ご利用になる RDBMS ベンダにお問い合わせください。

以 上